

電機連合 奈良地協ニュース

発行：2013年10月21日

No. 149

発行所：電機連合奈良地方協議会

Tel. 0743-56-9210

発行責任者：阪田 聖司

編集責任者：小谷 久己

美しい地球・幸せな暮らし

新たに1組織が加盟し 2013年度の活動始まる

第26回定期大会報告

電機連合奈良地方協議会(以下「地協」)第26回定期大会が2013年9月13日(金)にかしはら万葉ホールで開催された。冒頭、阪田議長のあいさつの後、電機連合の代表として7月の第23回参議院議員選挙で当選を果たした石上としお



石上としお参議院議員

参議院議員、電機連合本部から高谷 哲也(たかたに てつや)中央執行委員、連合奈良に送り出している小山 淳二(こやま じゅんじ)連合奈良会長を来賓としてお招きし祝辞をいただき、奈良県で産業政策参与としてご活躍されている志賀 通孝(しが みちたか)相談役から活動報告を受けた。

竹本電機労働組合の脱退とパナホーム労働組合 近畿・西部営業支部 奈良分会の加盟が承認され、パナホーム労働組合の磯部 淳哉(いそべ じゅんや)分会長からあいさつを受けた。また、功労表彰では、永年に亘り地協活動の発展に寄与していただき、このたび地協から脱退することとなった竹本電機労働



組合の藤岡 泰司(ふじおか たいし)委員長および永年勤続表彰を受けた笠井 みゆき(かさい みゆき)書記からあいさつを受けた。

本大会に提案された報告事項および審議事項はすべて原案どおり承認・可決され、2013年度の地協活動が始まった。

パナホーム労働組合 磯部分会長

組織強化・組織拡大を

阪田議長あいさつ(要旨)

日頃の電機連合奈良地方協議会活動へのご尽力に感謝を申し上げます。

第23回参議院議員選挙

7月の第23回参議院議員選挙は、組織を挙げて全力で戦い



電機連合奈良地方協議会 阪田議長

抜きギリギリで勝利した。改めて地協を構成する全組合員に、我々の代表である「石上としお」を参議院に送り出したことの御礼を心より申し上げます。今一度、今回の参院選の意味を確認したい。

①労働運動の前進：我々の代表を国会に送り出し、電機産業の成長とそこに働く組合員の生活改善に向け、電機連合として

政策制度要求実現の道筋がつけられた。

②電機連合としての責任：連合の古賀会長の出身産別として責任を果たせた。

③電機連合の組織力の再構築：各構成組織の総力の結集の結果。

④地協の組織力の強化：前回の参院選から奈良県での組織人員が減少しているにもかかわらず、奈良県での得票数を伸ばせられた。

組織人員の過半数を超える得票数が出せるよう、組織内議員と連携しつつ、労働運動の原点に立ち返り組合員一人ひとりとの対話を通して信頼関係を強化して行きたい。

組織加盟・脱退

本大会を以って竹本電機労働組合(2006年3月加盟)が地協を脱退することとなった。2010年12月に株式会社竹本電機製作所が倒産し、以降は労働債権の確保と退職金の積み増しの取り組みを行って来たが、一定の成果を得られたので地協脱退の申し入れに至った。

一方、パナホーム労働組合 近畿・西部営業支部 奈良分会が新たに地協加盟することとなった。共に活動することで高め合いたい。

経済・社会情勢

アベノミクスで経済指標は良くなっているように見えるが、一般庶民の懐具合には恩恵はないのが実情である。厚生労働省が3月に行った15～39歳対象の意識調査の結果によれば、日本の将来が明るい：19%、明るくない：45%であった。明るくないという理由は、将来的に社会保障の質が下がり負担が増えるからということである。幸福感は金だけではないが経済事情とも関係が深い。先般ニュースとなった7年後の2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が景気高揚にとって良い影響となるように願っている。

一方で景気高揚のための企業活動優遇施策にばかり目を奪われて、労働法制が後退する事のないように注視する必要がある。過去の小泉政権下のように労働者の処遇を劣化させて一時的に経済成長を果たしても負の遺産が増えるばかりである。働く価値を認識し、労働者の代表としての声を上げねばならない。

2013年度方針

2013年度の運動の基調としては以下の点を強化したい。

①各労組・支部との情報共有、中堅中小労組との更なる連携強化

②組織拡大の取り組み

③ファミリーサポート共済など、共済活動の推進

新しい仲間とともに頑張っていきたい。より一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

第 26 回定期大会附議事項

報告・確認事項

2012 年度一般経過報告及び活動報告に関する件

2012 年度会計決算報告及び監査報告に関する件

議事

第 1 号議案 加盟組合の承認等に関する件

第 2 号議案 2013 年度運動方針に関する件

第 3 号議案 2013 年度予算に関する件

第 4 号議案 2013 年度役員体制に関する件

第 5 号議案 表彰に関する件

2013 年度運動の基調

2012 年度の電機産業の国内生産は、電気機械・情報通信機械・電子部品・デバイスの全ての分野で落ち込みました。依然として国内デジタル家電の落ち込みが大きい状況で、輸出もここ数年続いていた円高傾向が 2012 年末まで続いたことや、領土問題の影響で中国向けが減少したことなどが主な要因です。中堅組合企業 12 社の業績では、回復傾向にある企業がある一方で、デジタル家電や半導体関連の不振が続いたことや、構造改革を実施せざるを得ない企業もあり、このことから当期純利益の赤字が前年度実績を上回り、財務状況面でも、現金をはじめとした資産が減少し、有利子負債の増加と自己資本比率の減少が 2 期連続で生じています。

2013 年度の見通しは、多くの企業で業績の回復を予想していますが、依然として続くデジタル家電の不振や円安による原材料価格の高騰・電力料金の値上げなど、電機産業を取り巻く環境の課題は多く、経済は期待感が先行しており実態経済の回復には至っていません。これらのことから、今後も私たちを取り巻く環境は、厳しい状況が続くと予測され、各労組・支部、中堅・中小労組との情報共有と連携がより重要となってきます。

電機連合の生活実態調査では、「倒産などで雇用が守られない不安がある」と答えた組合員は、'11 年で 62.7%、'12 年で 70.4%、「分社化により会社が変わってしまう不安がある」と答えた組合員は、'11 年で 58.1%、'12 年で 64.3% など、現在の職場や雇用に対する不安は増大しています。

対策として政策・制度実現に向けた活動が重要となります。各級組織内議員・協力議員と政策協議を深め、提言・行動していくことが必要です。

また現場レベルの活動では、経営に対するチェック機能を強化し、現場で働く組合員の肌感覚を経営に伝えていくことが労働組合の大きな役割です。そして組合員が地に足つけて、前を向いて頑張っていくような経営側の施策と発信を求め、活力ある職場を再生していくことに全力を注いでいく必要があります。

本年度、奈良地協がより強化する取り組みは、以下 3 項です。

- ①各労組・支部との情報共有、中堅・中小労組への支援活動の更なる強化

②組織拡大の取り組み：1 年 1 労組拡大

③「ファミリーサポート共済（遺族生活保障）」導入に合わせた共済加入の推進

このような取り組みとともに、従来からのよりよき社会づくりに向けた運動に力を合わせていきたいと考えます。

2013 年度役員体制

役職	氏名	出身単組・支部	新
議長	阪田 聖司	パナソニックプライアンス労組 奈良地区支部	
副議長	石川 俊博	シャープ労組 葛城支部	
	葛本 佳司	シャープ労組 奈良支部	
	原田 哲季	三笠コカ・コーラグループ労連	
	池田 寿和	パナソニックプライアンス労組 奈良地区支部	
	稲津 和之	シャープ労組 天理支部	
	特別副議長	小山 淳二	連合奈良 会長
事務局長	小谷 久己	電機連合奈良地方協議会専従	
常任幹事	橋本 修	シャープ労組 奈良支部	
	永井 克弥	シャープ労組 奈良支部	
	山本 勝	シャープ労組 天理支部	
	木村 篤司	シャープ労組 葛城支部	
	本間 久士	パナソニックプライアンス労組 奈良地区支部	
	上野 高司	ワコー電子労組	
	道願 直亮	タツミ労組	
	菊谷 昌昭	タツミ労組	
	磯部 淳哉	パナホーム労組 近畿・西部営業支部 奈良分会	新
	会計監査	福山 祐	パナソニックプライアンス労組 奈良地区支部
北島 洋史		シャープ労組 天理支部	
相談役書記	志賀 通孝	奈良県産業政策参与	
	笠井みゆき	電機連合奈良地方協議会専従	

電機連合の

けんこう共済

増やそう安心!! 減らそう掛金 保険の見直しで

制度改定

ガン特約の新設

ガンと診断確定されたとき
一時金 **200万円** をお支払い

**掛金が割安にもかかわらず、
幅広く手厚い補償**

- 自宅療養でも給付（休業補償）
- ガンに手厚い補償
- 入院は初日から 365 日分までの支払い
- 日常生活やレジャーにも安心な特約

新規加入受付中です!

● お問い合わせは

電機連合 福祉共済センター  **0120-04-6488**